

保健

(050大修館・保体006・現代保健体育 改訂版)

担当: 中村 善幸

レポート提出回数 6 単位数 2

必要面接時数 2

1. 学習の到達目標と取り組み

目標	個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
目標に向けての具体的な取り組み	1、個人や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できるような意欲を育てます。 2、生涯の各段階の健康課題に対して、自ら適切に対応できるよう保健・医療制度や機関の活用的重要性を理解できるようにします。 3、社会生活における健康の保持増進には、職業生活や環境などが深く関わっていることを理解できるようにします。

2. 年間学習計画と評価方法

月	内容のまとめ	主な学習目標と学習活動	単元・題材	レポート		スクーリング	Aテスト日と範囲	評価方法	
				回数	期限				
4月	単元1 現代社会と健康	<健康の考え方> ・健康の考え方や保持増進の方法は、個人の適切な意思 決定や行動選択が重要となっていること。わが国や世界 で様々な保健活動や対策が行われていることを理解する。 <健康の保持増進と疾病の予防> ・健康の保持増進や生活習慣病を予防するためには、食事・運動・休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践及び喫煙飲酒に関する適切な意思決定や行動選択が必要である と、また、薬物乱用では心身の健康などに深刻な影響を与えることから行ってはならないことや、医薬品は正しく使用 する必要があること、感染症の予防には、適切な対策が必要であることなどを理解する。 <精神の健康> ・人間の欲求と適応機制には様々な種類があることや精神と 身体には密接な関係があること。また、精神の健康を保持 増進するためには、欲求やストレスに適切に対処し、自己 実現を図るよう努力することが重要であることを理解する。	1 私たちの健康のすがた 2 健康のとらえかた 3 さまざまな保健活動や対策 4 生活習慣病と日常の生活行動 5 喫煙と健康 6 飲酒と健康 7 薬物乱用と健康 8 医薬品と健康	No.1	5/12	5/3	第1回 7/5	レポート 教科書 P.8～ P.25 レポート NO.2 教科書 P.26～P45	
5月			9 感染症とその予防 10 エイズとその予防 11 健康にかかわる意思決定・行動選択 12 意思決定・行動選択に必要なもの 13 欲求と適応機制 14 心身の相関とストレス 15 ストレスへの対応 16 自己実現	No.2	6/8	6/21			
6月			<交通安全> ・交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な 運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度 及び交通環境の整備などが重要であること。交通事故には、責任や補償問題が生じることなどを理解します。 <応急手当> ・傷害や疾病に際しては、心配蘇生法などの応急手当を行う ことが重要であること。また、応急手当には正しい手順や方 法があることを理解します。	17 交通事故の現状と要因 18 交通社会における運転者の資質と責任 19 安全な交通社会づくり 20 応急手当の意義とその基本 21 心肺蘇生法 22 日常的な応急手当	No.3	7/22	無し		第2回 10/18
7月				1 思春期と健康 2 性意識と性行動の選択 3 結婚生活と健康 4 妊娠・出産と健康 5 家族計画と人工妊娠中絶 6 加齢と健康 7 高齢者のための社会的とりくみ	No.4	9/29	10/4		第3回 2/14
8月	単元2 生涯を通じる健康	<生涯の各段階における健康> ・生涯にわたって健康を保持増進するためには、生涯の各段 階の健康課題に応じた自己の健康管理を行う必要があることを理解します。 <保健・医療制度及び地域の保健・医療機関> ・生涯を通じて健康を保持増進するためには、わが国の保健 医療制度や機関について知り、地域の保健所、保健センタ ー、医療機関などを適切に活用することが重要であることを 理解します。	8 保健制度と保健サービスの活用 9 医療制度と医療費 10 医療機関と医療サービスの活用	No.5	11/17	11/15	レポート No.5 教科書 P.76～91		
9月			<環境と健康> ・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を 及ぼすこともあること。このため、様々な対策がとられている ことを理解します。	1 大気汚染と健康 2 水質汚濁と健康 3 土壌汚染と健康 4 健康被害の防止と環境対策	No.6	1/19	1/17	レポート No.6 P.92～ P.105	
10月			<環境と食品の保健> ・学校や地域の環境を健康に適したものにしよう、基準が 設定され、環境衛生活動が行われていること。また、食品の 安全性を確保するための基準が設定され、食品衛生活動が 行われていることを理解します	5 環境衛生活動のしくみと働き 6 食品衛生活動のしくみと働き 7 食品と環境の保健と私たち 8 働くことと健康 9 労働災害・職業病と健康 10 健康的な職業生活	No.6	1/19	1/17		
11月	単元3 社会生活と健康								
12月									
1月									
2月									
3月									

3. 評価の観点

※ 平成19年度以前の教科書・学習書は、ページ数が異なります。注意してください。

評価の観点	観 点 の 内 容
関心・意欲・態度	個人生活や社会生活における人身の健康や安全に関心を持ち自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組もうとする。
思考・判断	個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し総合的に捉えることにより適切な意思決定を行い選択すべき行動を適切に判断している。
知識・理解	健康・安全の意義を理解するとともに生涯を通じる健康及び社会生活と健康について課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し知識を身につけている。